

平成27年度 帯広市文化財審議委員会 議事録（概要）

- 開催日時：平成27年8月27日（木）18時30分～20時
- 場 所：帯広市役所8階 教育委員会室
- 出席委員：奥野委員長、石原副委員長、安藤委員、池添委員、池田委員、伊藤委員、金子委員、熊林委員、千葉委員、山崎委員 10名
- 事務局：神田生涯学習部長、葛西企画調整監、増子文化課長、北沢百年記念館長村井係長、土田主任補、藤井係員

■会議次第と発言要旨

1 開会

2 議題

（1）正副委員長の選出について

帯広市文化財保護条例第4条第5項の規定に基づき、委員の互選により奥野淳一委員を会長、石原由美子委員を副会長として選出。

（2）平成27年度 帯広市文化財保護関係事業 進捗状況について

<事務局より資料に基づき説明>

<質疑応答>

（委員）レンガ遺構の仮看板はどこに、どういう形で立てるのか。

（事務局）レンガ遺構発見現場の現地の横を予定している。角材にアルミ複合板、インクジェット出力シートの仕様。レンガ遺構の資料確認が落ち着いたら史跡標示板を設置したい。

（委員）十勝圏イオル推進会議のメンバー構成と活動費はどのようになっているか。

（事務局）推進会議は、期成会から市町村議会議長が抜けたメンバーとなっている。活動費は期成会同様に帯広市と町村会からの負担金が収入となる。

（委員）レンガ遺構の園路ペイントが剥がれてしまっている。

（事務局）ペイント補修を行うが、剥がれにくい塗料も検討したい。

(3) 今後の帯広市文化財保護関係事業の取り組みについて

<事務局より資料に基づき説明>

<質疑応答>

(委員) 真正閣や川原邸、宮本商産、旧横瀬邸などの古建築調査物件は各種文化財の候補として挙げられたことはあるのか。

(事務局) 古建築調査物件の多くは民間所有であり、各種文化財に指定・登録するには所有者との調整が困難な部分があり、これらについては調査・記録として残している。

(委員) 新たな文化財の登録・指定に向けて、古建築調査物件を各種文化財に指定・登録する価値やメリットがあれば、民間所有者の同意を得られると考えられる。

(委員) 民間所有者への説明の仕方によって理解が得られるのではないのか。

(事務局) 各種文化財には優遇措置があるが、制限も多く、所有者の理解を得られていない状況。

(委員) 「帯広市史跡・石碑・古建築ガイドマップ」に掲載されている古建築物件は外観を見学するだけのものか。

(委員) 既に存在していない物件はその旨表示すべきである。

(事務局) 所有者が承諾すれば物件内部の見学も可能である。ガイドマップは平成14年作成のもので、既に一般配布はしておらず、今回は特別に資料として配付したもののだが、既に存在していない物件の表示は必要だと考えている。

(委員) 文化財の指定・登録に向けて文化財審議委員会から発案できないのか。これまではどのように文化財の指定を行ってきたのか。

(委員) 文化財審議委員会は文化財の指定・登録に積極的に提案し取り組む立場なのか。

(委員) 文化財審議委員会は教育委員会の諮問を受けて審議するものなので、発案するのであれば別組織を作らなければならないのではないのか。

(事務局) 市の文化財指定は教育委員会事務局が文化財審議委員会に諮問し、答申を受け指定してきた。条例を厳密に解釈すると、文化財審議委員会が発案できる

と規定されていないが、文化財審議委員会で頂戴した意見を事務局が判断して、諮問につなげたい。

- (委員) 文化財審議委員の任期の中で文化財について活発に協議されなければならない。年1回の開催は少ないのではないか。
- (委員) これまで文化財審議委員会は、教育委員会の諮問機関という位置づけで年1回開催してきた。文化財審議委員会の方向性を事務局で整理し、積極的な議論の場を設けるのかどうか決めていただきたい。
- (委員) 条例上は、文化財審議委員会は諮問に応じて審議している。今回出された意見を反映していくのであれば、事務局に方向性や方法を示していただかなければならない。
- (事務局) 文化財審議委員会から意見を頂戴し、考えをまとめてから諮問という話が出てくるものと考えている。今回の文化財審議委員会では、今後の委員会・文化財行政をどのように進めていくのかについて皆さんの意見を聞きながら進めていきたいという意図で「文化財の今後の取り組みについて」という議題とした。
- (委員) まさにそういう意見が出たので、考えを整理して次回示していただきたい。
- (委員) 市民から意見を吸い上げ、文化財に指定したい物件を集める方法や、文化財審議委員会からの物件推薦についての条項を条例に入れてはどうか。
- (委員) 出された貴重な意見や、文化財審議委員会の立場や市民からの意見を吸い上げる方法、文化財審議委員会の開催回数など含めて整理していただきたい。また、貴重な古建築調査物件に対する取り組みも進めていただくことで要望したい。
- (委員) 川西農協が岩内に作った発電所や掩体壕（えんたいごう）、さかえ公園の防空壕などは文化財としてはかなり価値があると思われるので、そういったものを含めて、検討していただきたい。
- (委員) 1年に1回の会議ではあるが、文化財審議委員会が力添えをして、市が積極的に動かなければならないと感じる。
- (委員) 今後についての意見が出たので、文化財審議委員会の方向性の整理や、新たな文化財候補条物件についても調査していただき、次回につなげて欲しい。

以上